

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：13701

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K18878

研究課題名（和文）開発途上国における地域レベルでの精神保健の質を評価する指標の開発

研究課題名（英文）Development of index to assess the mental health at the community level in developing countries

研究代表者

西尾 彰泰（Nishio, Akihiro）

岐阜大学・保健管理センター・非常勤講師

研究者番号：90402172

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：新型コロナウイルスの流行の影響により、当初計画していた2国（カンボジア、ガンビア）のうち、カンボジアでしか調査を実施することができなかった。カンボジアにおいても、現地の医療がストップしてしまい、予定どおりにデータが納品されず、不完全なデータが当初予定から大幅に遅れて納品されたため、研究期間内に予定された成果を上げることができなかった。それでも、PCN Report誌、PLOS ONE誌において原著論文を發表することができた。期間内に發表できなかった研究成果においては、今後も引き続き論文化して發表していく予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

開発途上国におけるメンタルヘルスシステムを評価する指標は、これまで確立しておらず、それが開発途上国においてメンタルヘルスが軽視される原因のひとつとなっている。本研究は、指標を確立するための基礎データとなっており、指標開発の重要な役割を果たしている。

研究成果の概要（英文）：Due to pandemic of the new coronavirus, we were only able to conduct the survey in Cambodia out of the two countries that we had originally planned (Cambodia and Gambia). In Cambodia as well, local medical care stopped, data was not delivered as scheduled, and incomplete data was delivered much later than originally planned, making it impossible to achieve the planned results within the research period. Still, we could publish "Evaluating the maturation of mental health systems in developing countries" in PCN Report (2023) and "Mental health literacy survey among Cambodia's urban and rural populations: Results from a vignette-based population survey" (2022) in PLOS ONE. We plan to publish articles from the research results that could not be published within the period.

研究分野：精神保健

キーワード：精神保健 グローバルヘルス グローバルメンタルヘルス

様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

1. 研究開始当初の背景

開発途上国の精神保健レベルが向上するためには、その地域の精神保健の質が客観的に評価される必要がある。地域で行われる大規模から小規模、組織的から自発的まで、様々な精神保健活動の効果は、これら进行评估することによって、はじめて可視化できるからである。しかし、現状は、WHO によって国家レベルにおいて人材や設備等の充実度を評価する指標が提案されているに過ぎない。精神保健レベルを地域単位で評価することができる簡便な指標の開発が求められている。

2. 研究の目的

開発途上国の精神保健レベルが向上するためには、その地域の精神保健の質が客観的に評価される必要がある。地域で行われる大規模から小規模、組織的から自発的まで、様々な精神保健活動の効果は、これら进行评估することによって、はじめて可視化できるからである。しかし、現状は、WHO により、WHO Assessment Instrument Mental Health Systems (2005)、Monitoring and evaluation of mental health policies and plans (2008)、Mental health Gap intervention Guide (2010)、Mental Health Action Plan (2013)等、国家レベルにおける人材や設備等の充実度を評価する指標が提案されているに過ぎない。そこで、本研究では、何らかの介入研究や開発プロジェクトが実施される規模の地域において、その対象地域の精神保健の質を評価する、つまりプロジェクトを実施すべき地域であるかの根拠や、プロジェクト実施による効果が測定できる指標を作ることとする。

それでは、地域において精神保健が優れているとは、どのような状態であろうか。ひとつは、精神科医療サービスが提供されていることである。しかし、提供されていたところで、「そのようなサービスがあること知らなかった」、「治療効果が期待できない」、「アクセスが悪く通うことができない」、「値段が高く治療を続けられない」、「精神疾患への偏見が強く、病院にかかることがはばかれる」という社会では、地域の精神保健が優れているとは言えない。したがって、地域における精神保健の質とは医療と社会の両面から評価されるべきであろう。上記を踏まえ、これまでの研究によって、どのような社会が良い精神保健システムを持っていると言えるのかを検討したところ、精神疾患を発病した時に速やかに専門機関を受診できるか？(DUP)、治療を継続し続けなければならない疾患(統合失調症やてんかん等)において治療を継続することができるか？(治療継続性) 精神疾患に対する差別・偏見が少ないか？(メンタルヘルスリテラシー) 精神疾患を持った人が社会参加できているか？(社会参加度)の4つの視点から評価を行うことが妥当であると考えられた。そこで、この4つの軸について測定可能な各種データを集め、それぞれについて指標として成立するかを検討することとする。また、最終的に、それらを元にレーダーチャート型の評価モデルを作ること、視覚的にも容易に理解できるかたちで、地域の精神保健の質を示すことを目指す。

3. 研究の方法

4つの軸について、それぞれ示す。

DUP

精神病患者が発病して精神科医療機関を受診するまでの期間、つまり Duration of untreated psychosis (DUP)を、西アフリカのガンビア共和国における2箇所の精神科外来にて、初診精神病患者のDUPを1年間測定する。また、ガンビアにおいて、医療サービスの提供のされ方、社会システム、文化背景など、各種社会的要素について聞き取り調査を行う。結果については、これまでの研究による応募者が集積したカンボジアの都市部と農村部のDUPと比較することで、開発途上国でも異なる文化圏に属する2国の間で、各種社会的要素がDUPに与える影響について検討し、論文を作成する。

治療継続性

カンボジアのプノンペンとシェムリアップの精神科外来におけるカルテ調査により、統合失調症患者とてんかん患者の3年および5年治療継続率を測定し、諸外国の治療継続率と比較を行う。結果をまとめ、論文を執筆する。

メンタルヘルスリテラシー

The Mental Health Literacy Scale, Mental Health Knowledge Questionnaireを用いて、カンボジアのプノンペンとシェムリアップにおいて、一般住民200人ずつの精神疾患に関するリテラシーを測定する。集計後、同一の因子に属しながら異なる傾向を示した質問については、開発途上国の文化的コンテキストに合致しない質問であったかを確認した後に除外し、有効なリテラシー調査の項目を選別する。結果は、先進国諸国とのメンタルヘルスリテラシー質問紙の項目ごと、因子ごとにおける得点の違いについての分析をまとめ、論文を執筆する。

社会参加度

開発途上国において、社会参加、あるいは社会から阻害されるとはどのようなことなのか、どのような不利益があるのかについて、カンボジアのプノンペン、ガンビアにおいて、精神疾患患者

100人にインタビューを実施し、その結果についてテキスト分析を行う。テキスト分析は、患者のインタビューの中で出現する要素をKJ法によってカテゴリー分類し、頻度を測定する。その後、患者の疾患名や患者背景との関連、カンボジアとガンビアの違い、カンボジアの農村部と都市部の違いを、対応分析等によって分析し、その結果を論文化する。また、分析の結果から、社会参加と阻害を意味する項目を抽出し、そこから「精神疾患患者の社会参加スケール」の暫定版を作成する。本研究では、暫定版のスケールを検証するところまでは目指さない。

4．研究成果

本研究が始まった年に、新型コロナウイルスの蔓延が起こり、現地に渡航することも、現地パートナーが現地で活動することもできないことが数年に及んだ。それでも入手できたデータと、先行研究で得たデータを組み合わせ、PCN Report 誌で「Evaluating the maturation of mental health systems in developing countries」(2023)、PLOS ONE 誌にて「Mental health literacy survey among Cambodia's urban and rural populations: Results from a vignette-based population survey」(2022)を発表することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 2件/うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 Nishio Akihiro, Marutani Toshiyuki	4. 巻 17
2. 論文標題 Mental health literacy survey among Cambodia's urban and rural populations: Results from a vignette-based population survey	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0265120	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Nishio Akihiro, Shibuya Fumiko, de los Reyes Calvin S., Estrada Crystal Amiel M., Gregorio Ernesto R., Sari Dian Puspita, Warnaini Cut, Kadriyan Hams, Hattori-Uchima Margaret, Dacanay Paul, Ngirmang Tarmau Terry, Khalif Mohamed, Volavola Saula Golea, Tomokawa Sachi, Kigawa Mika, Kobayashi Jun et al.	4. 巻 51
2. 論文標題 Content analysis of health-related subjects in the K12 school curricula of Japan, Indonesia, Philippines, Guam, Micronesia, Marshall Islands, Palau, and Fiji	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Tropical Medicine and Health	6. 最初と最後の頁 1~20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1186/s41182-023-00511-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Nishio Akihiro, Marutani Toshiyuki	4. 巻 17
2. 論文標題 Mental health literacy survey among Cambodia's urban and rural populations: Results from a vignette-based population survey	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 PLOS ONE	6. 最初と最後の頁 0265120 0265120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1371/journal.pone.0265120	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する
1. 著者名 Nishio Akihiro, Marutani Toshiyuki	4. 巻 2
2. 論文標題 Evaluating the maturation of mental health systems in developing countries	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Psychiatry and Clinical Neurosciences Reports	6. 最初と最後の頁 1~8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/pcn5.109	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------